

曜日はアルバイトとして働く。

(神奈川県 相原 貞雄)

シベリア抑留記

神奈川県 石井 勇

私が抑留されたのは昭和二十年十月下旬でした。八月十二、十六日、中国東北部牡丹江郊外の愛河でロシア軍戦車部隊と交戦、敗北の色濃く、十六日夜陰に乗じて松花江にかかる橋梁を爆破して脱出し、二カ月有余の逃避行に移りました。終戦情報も知らず、十五日以降もロシア軍は攻撃の手をゆるめなかったのです。生命保証度ゼロの逃避行が三年間の抑留生活と共に生涯忘れられない事実となっています。あれもこれも記述したいのですが、取りあえず要点だけをかいつまんで筆記させていただきます。

南への逃避行

八月十七日、正午頃、小高い丘の中腹で突然戦闘機

の機銃掃射を受けた。「危ない！ 身を伏せろ！」誰かが叫んだ。反射的に身をかわした。目の前で二、三人がばたばたと倒れたのを目撃した。九月初め頃には我が分隊だけの単独行動になってしまった。十一、二人だったろうか。いつの間にやら、背囊の中味は鍋釜に化けていた。一時は満人部落からかき集めた食糧で間に合っていたが、次第に警戒が厳しくなりそれも出来なくなってしまう。手榴弾を使って川鱒も食べ、野豚も食った。日がたつにつれてそれも駄目になった。自警団の襲撃も何回か受けたが、幸い犠牲者は出なかった。ただ、落伍者が半数以上出たのが残念だった。十月半ば過ぎには山肌に白いものが混じって見えるようになってきた。固いトウモロコシばかり生かじりしてきたせいか腹をこわしてしまった。そうでないまでも飢えと寒さで衰弱し切っていたのだ。

とうとう近くの部落に投降した。このときほど国境を越えた人の情が身に沁みたことはなかった。屯長宅で手厚いもてなしを受けた。高粱酒もふるまって貰った。散髪もしてくれた。余程好日派だったんだろう。

ああ、生き延びてきてよかった。今までの苦勞が一ぺんに吹き飛んだ感じだった。

抑留記

私の抑留生活は十月末より始まった。

満州では吉林省にあつた豊満ダム解体作業約一週間を初めに、間島省琿春での駅構内貨車積卸作業四カ月有余、シベリアに移送されたのは翌二十一年五月だった。豊満ダムでは、期間が短かつたせいか、特筆することはないが、貨車の蓋が外れて左足甲にぶつかり、歩行困難になつたこともあつた。

シベリアと朝鮮との国境の街琿春も思い出の地だ。同僚が歩哨のいたずらでマンドリンと称する自動短銃が暴発して頭部を貫通され即死したのを目撃した。また、私自身も大豆を盗もうとして歩哨に発見され、短剣を投げつけられたが、とっさに身をかわし、危うく難をのがれた。

ウラジオストック、グルビンカ收容所に收容された(二十一年五月〜二十二年七月)。收容所入りしてから気候の温暖な期間はこれといって特筆する事實はなか

つたが、十二月中旬だつたらうか、凍結したウラジオ湾に面した高台(ナーベルジュナヤ)、寒風吹きすさぶ中での建築基礎工事中、コンクリート用鉄板を移動中、左手を挟まれ、中指の爪半分程を切断した。全治には二カ月以上かかったが、十日ばかり休養が許されただけで、治療しながら作業にかり出された。そのときの苦痛は今もって忘れられない。ただ一つ白露系の通訳の女性から慰めの言葉をかけられたのが印象に残っている。その後も苦痛作業は続いた。指の負傷が治癒しないまま、洞穴内のヘドロ除去作業に従事させられた。昼間でも氷点下十幾度だつたと聞いている。しかも終始ダワイダワイの連発だつた。心身共に冷えきつた。この頃から強烈な冷え症にかかった。今もってその後遺症に悩まされている。

スーチャン地区カザンカ收容所に移動となつた(二十二年七月〜二十三年七月)。この頃から虱に悩まされるようになった。週一回衣類の煮沸消毒を実施してくれたが、あまり効果はなかった。森林鉄道補強工事に二、三カ月間従事した後、炊事班に回された。この

地方の冬は早い。直径一・五メートルもある釜に水張りのため、寒風の中、戸外から水をバケツに汲んで運ぶ。満杯にするにはかなりの時間がかかる。穀類は粟、高粱、燕麦等、それに乾燥野菜、乾魚等を入れ、時間をかけて煮る。燃料は裏山から伐採してきた薪、こげつき防止のため終始攪拌する。戸外労働とはまた違った感じだ。

炊事下番してからは、収容所近辺の地ならし作業、カチンカチンに凍結している地点をつるはしで掘る。作業がはかどるわけがない。ちょっとでも手をゆるめるとダワイダワイの連発を受けた。当時のロシア人は我々には考えられない無軌道なやり方、考え方をしていたものだ。積雪、気温降下で作業困難だ、それでも氷点下三十度（推定）までは作業中止指令が出なかったのだ。症状（冷え症）はますますひどくなった。手足の感覚もなくなり、凍傷寸前になったのも覚えてゐる。

【執筆者の紹介】

生年月日 大正十四年十月十日

学歴 昭和十八年二月、徳島県立（旧

制）池田中学校卒業

昭和二十年二月 香川県善通寺、中部八六部隊入隊

三月 満州東安省虎林二五一部隊に転属

後、間もなく急性肺炎にて陸軍病院に入院

六月 混成二一〇九六部隊に配転

昭和二十三年七月 舞鶴に信濃丸で復員

昭和二十五年五月 上京後も定職なし

昭和三十年十月 横浜市株式会社日新運輸倉庫系列

会社入社

昭和四十五年五月 東京都品川区株式会社鈴木製作所

入社

昭和六十年十月 定年退職

（神奈川県 相原 貞雄）